

コミュニケーションを教える

コミュニケーションがあらゆる療育の成功の鍵を握っています。多くの場合、あなたの子どもにとって話し言葉は、とても難しいコミュニケーション様式であるでしょう。そこで、発話のトレーニングを続けながらも、並行して他のコミュニケーション様式を探ることが最も有益なことなのです。うまくいきそうなコミュニケーション法を探る上で、コミュニケーションを自発するように子どもを教えることが重要です。子どもは、コミュニケーションのやり取りの中で“先に始める”ことを学習しないとけません。

あなたのお子さんは、好きなアイテムを要求することに最も動機付けられています。そこで、子どもは、コミュニケーションが、好ましい結果をもたらすということ学ぶのです。たとえば、もし子どもの好みや、アニメや絵本、お菓子なら、最初のコミュニケーションのやり取りは、それらのアイテムを要求することから教えます。子どもがこれらのスキルに熟達してくると、コミュニケーションの機能を拡張して、周囲の環境で目新しいことが起こったときに他者にコメントするように教えることができるのです。

上記の原則を使って、アンディ・ボンディ PhD とロリ・フロスト (MS/GCC-SLP) は、これらのスキルを教えるためのダイナミックなコミュニケーションツールを開発しました。絵カード交換式コミュニケーションシステム (PECS) は、コミュニケーションの自発と要求を教え、最終的に身近な目新しい物事についてコメントすることを教えるものです。PECS は 1985 年に開発されました。PECS は、世界中の国々で行われた実証研究に裏打ちされた科学的根拠に基づいたコミュニケーションの指導方法なのです。

PECS とは何か？

絵カード交換式コミュニケーションシステム (PECS) には、6 つの指導段階 (フェイズ) があります。絵のシンボルは普遍的に誰にでもわかりやすいことから、子どもは聞き手と絵カードを交換することによってコミュニケーションの自発を学習します。絵のシンボルの区別、文の構成、アイテムの特性をあらゆる属性語の使用、コメントすることなどのスキルは体系的に拡張していきます。PECS を使ってきた生徒の中には、発話が出始めたり、音声表出の機器を使用したりするようになる子どももいます。各フェイズの概要を下記に説明します。

フェイズⅠ－自発的な絵カードの交換

フェイズⅡ－距離と持続的な働きかけ

フェイズⅢ－絵カード間の区別

フェイズⅣ－文の構成

属性語一文の構成の拡張

フェイズⅤ－質問への応答

フェイズⅥ－周囲の出来事のコメント



あなたのお子さんも

絵カードでコミュニケーションができる！

PECS は、どこで学べるか？

ピラミッド教育コンサルタント社では、自閉症や広汎性発達障害の子どもを支援している専門家や親御さんのためにコンサルテーションやさまざまなトレーニングの機会を提供しています。ピラミッド教育コンサルタント社は、質の高い療育を提供することに献身的で訓練された専門家の集団です。

トレーニングとコンサルテーションは、コミュニケーションの自発と効果的な教育環境の設計に焦点を当てています。私たちは、機能的なコミュニケーションの発展に焦点を絞った PECS と、広範囲に応用行動分析 (ABA) の技法を独自に組み合わせて打ち立てた指導法であるピラミッド教育アプローチを提供し、その著作権および知的所有権を持っています。

コンサルテーションの予定を立てたり、ワークショップに参加したりするために、さらに情報が必要であれば、直接、私どもにご連絡ください。私たちは、あなたやお子さんにコミュニケーションの魅力をお伝えすることを楽しみにしています。

ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン (株)
〒803-0835

福岡県北九州市小倉北区井畑 3-6-32

電話：093-581-8985

FAX：093-980-1923

www.pecs-japan.com